

再評価結果(平成21年度事業継続箇所)

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道331号 <small>なかやまかいりょう</small> 中山改良	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局		
起終点	自：沖縄県南城市玉城字志堅原 <small>なんじょうしたまぐすくあざしけんぼる</small> 至：沖縄県南城市玉城字中山 <small>なんじょうしたまぐすくあざなかやま</small>	延長	1.8km				
事業概要							
<p>一般国道331号は、沖縄本島島尻地域を連結し県都那覇へ至る延長約50kmの主要幹線道路である。中山改良事業は、一般国道331号の線形改良を行い、産業・観光の発展及び交通安全の確保等を目的とした道路事業である。</p> <p>なお、当該道路は、平成20年度に実施したB/Cの点検結果を踏まえて、平成21年度事業の執行を見合わせ、再評価を行ったものである。</p>							
H2年度事業化		都市計画決定 不要		H6年度用地着手			
全体事業費		約82億円	事業進捗率	71%	供用済延長		
計画交通量		5,700台/日					
費用対効果 分析結果 (3便益)	B/C	(3便益)	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体)	0.7	23/96億円		66/66億円		
	(残事業)	2.9	(事業費 : 20/93億円 維持管理費 : 3.1/ 3.1億円)		(走行時間短縮便益 : 56/56億円 走行経費減少便益 : 9.5/9.5億円 交通事故減少便益 : 0.23/0.23億円)		平成21年
	*全体B/C=0.9、 残事業B/C=4.0						
感度分析の結果							
残事業について感度分析を実施							
<p>交通量変動 : B/C=2.9 (交通量 +10%) B/C=2.6 (交通量 -10%)</p> <p>事業費変動 : B/C=2.7 (事業費 +10%) B/C=3.2 (事業費 -10%)</p> <p>事業期間変動 : B/C=2.9 (事業期間+20%) B/C=2.9 (事業期間-20%)</p>							
事業の効果等							
<p>○ 国土・地域ネットワークの構築(一般国道331号[現道]における大型車のすれ違い困難区間の解消)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路構造令に合わない箇所があり、カーブがきつく歩道などが未整備。大型バスなどのすれ違いができない状況である。中山改良の整備により、地域交通の安全に寄与することが期待されている。【約3.5億円※】 ○ 個性ある地域の形成(主要な観光地へのアクセス向上が期待) <ul style="list-style-type: none"> ・国道331号は、南部観光ルートの拠点となる路線で、周辺には世界遺産の斎場御嶽、新原ビーチ、あざまサンサンビーチ、奥武島、玉泉洞など多くの観光地やカフェ等が点在しており、中山改良の整備により、観光の活性化が期待されている。(観光客の増加:270万人→300万人)【約7.7億円※】 ・休日の交通量が、平日の交通量と比べて約2割(年間約14万台)多い。【約5.1億円※】 ○ 災害への備え(一般国道331号[現道]における通行止め時の迂回路の形成) <ul style="list-style-type: none"> ・南城市の国道331号は、唯一の幹線道路となっている。 ・しかしながら、国道331号中山改良周辺は地すべり危険箇所となっており、道路利用者はもとより地域住民において、災害への不安がある。実際、平成20年6月に国道沿い斜面の大きな岩が崩れ、約8ヶ月間の通行止めとなった。そのため、中山改良は、災害に強い道路として期待されている。【約19.4億円※】 ・さらに、大雨時には、周辺の山側及び海側の市道は冠水する状況。 そのため、緊急時の消防車及び救急車の通行ができないこともあり、中山改良は代替路線として期待されている。【約7.5億円※】 							
※は、供用後50年間の便益額として試算した値(参考値)							
関係する地方公共団体等の意見							
地域から頂いた主な意見等							
<p>・国道331号は、通勤・通学時及び南城市と南部地域を結ぶ市民生活を支える重要な道路であり、世界遺産である斎場御嶽(セーファウタキ)をはじめ数多くの文化遺産と主要観光施設が点在することから、観光客が年々増加している。また、交通安全上懸念される平面線形や縦断勾配の厳しい箇所が随所にあるため、安心・安全な沿道環境及び観光産業や各種物流面への経済的不利益は計り知れないものであるため、整備促進するよう南城市議会(平成21年4月28日)より要請を受けている。</p> <p>・沖縄県の鉄軌道があまねく整備されていなかったこともあって、空港、港湾等の交通拠点や中心都市と市町村を結ぶ交通手段が専ら道路に依存している事情により交通渋滞損失時間が全国でも屈指の大きな損失をこうむっている状況にある。県民の安心、安全な生活環境の確保及び県土の均衡ある発展を図る観点から早急に見直しを行い計画通り事業着手するよう沖縄県議会(平成21年6月16日)より意見を受けている。</p>							
事業評価監視委員会の意見							
<p>・事業の性格上、防災対策や観光バスの交互通行など、道として備えるべき最低水準の交通安全を確保するための性格が強い。</p> <p>・効果として、これまでの3便益の他に「災害による通行止めを考慮した便益」や「休日を考慮した便益」、「観光振興への効果」などの地域社会が受ける便益の提案についても、合理性がある。</p> <p>・南城市長から、これまでの災害の状況や現道の危険性など、地域の置かれている現状や観光振興面での寄与など説明を聞き、数字で表わせない効果があると認識した。</p>							

- ・事業進捗が著しく、あと少しの投資で完了し、事業効果が実現する。
- ・審議の結果、「事業継続」が妥当と判断。

県知事の意見(平成21年4月7日)

・沖縄県の直轄国道は各圏域間のアクセスを強化するなど車社会の沖縄県の振興発展に重要な役割をもっている。沖縄県特有の事情や当地域の置かれた状況を配慮し、事業の必要性を再認識し、早期供用に向けて是非とも整備を継続して頂きますようお願いいたします。

(以下、平成21年6月24日沖縄県知事コメントより抜粋)

- ・3月に凍結された国道331号中山改良の事業について、事業継続が妥当とされたことを大変良かったと思っております。
- ・地元国会議員を始め、県議会や関係市町村及び市町村議会、地元の皆様方が一体となって、早期の事業再開を求める要望を繰り返し行ってきたことにより、適正に評価された結果だと思っています。
- ・委員会で議論されたように、道路整備の必要性について、これまでの3つの便益に加えて、幅広い観点から他の便益も検討して頂きたいと考えております。
- ・今後は、国において早期に事業が再開され整備が促進されるよう期待するものであります。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成18年1月1日に1町3村(旧佐敷町・知念村・玉城村・大里村)の合併が行われた。(現在の南城市)
- ・中山改良に並行する一般国道331号は南部地域における観光周遊ルートとしての役割を有しているが、線形不良箇所が多く、大型車のすれ違いが困難で事故の危険性が危惧される。
- ・当該地域は急峻な地形であるため自然災害に対し脆弱であり、過去に幾度も被災しており、平成20年6月には、落石災害により約180日の通行止めが発生している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

[執行済み額]約58億円(執行率約71%) 残事業の投資効果も高い事業であることから、今後、用地買収及び工事の促進を図る。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・コスト縮減により見直した構造の調査設計を行い、用地買収及び工事を進め早期供用を目指す。
- ・今後、用地買収及び地元協議を進め、工事の進捗を図る。

施設の構造や工法の変更等

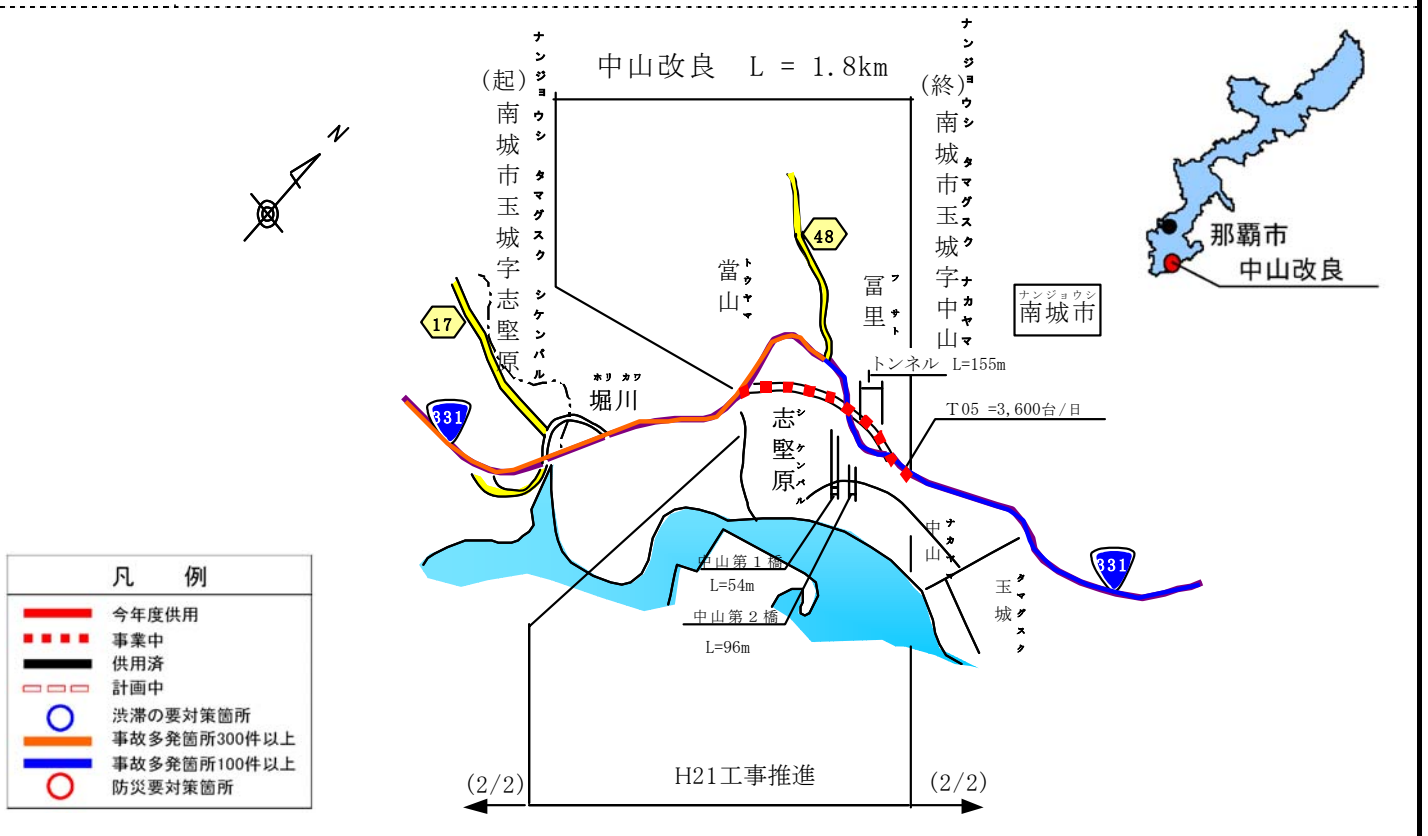
トンネル断面積の縮小や事業延長の見直し(現道活用した整備等)により約3億円のコスト縮減を図る。

対応方針 見直し継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、沖縄県や地元南城市等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 * 3便益に、費用便益分析マニュアルに規定のある便益の試算値を加え、費用で除した場合のB/Cの値